

山梨大 ウクライナに講義配信開始 学生感謝「勉強したい」

4大学500人超 遠隔受講へ

山梨大は8日まで、ロシア軍による侵攻で授業を受けられないウクライナの大学院生向けに遠隔授業を始めた。山梨大によると、現時点で4大学の500人以上がAI（人工知能分野の科目を受講する見通し。同日には現地の大学や大学院生が避難するポーランドとオンラインでつなぎ、遠隔授業を受けている女子大学院生が「希望を一つつけてくれて感謝している」と語った。（小野田洋平）

山梨大によると、これまでにウクライナの国立航空宇宙大、国立経済大の2大学の36人が山梨大のAI分野の3科

目の履修を希望し、4日に授業を配信。6日には別の2大学を加えた4大学の計495人が新たにAI分野の全7科



勉強できることに感謝する国立航空宇宙大の女子大学院生
＝山梨大大村智記念学術館大村記念ホール

目の履修を希望し、来週から授業を始める見通しという。

8日は山梨大の島田真路学長らが国立航空宇宙大のセルギー・マルコヴィッチ副学長と、遠隔授業を避難先のポーランドで受けた修士1年のアリョーナ・ヴェプリシイカさんとオンラインで会話した。

マルコヴィッチ副学長は今も大学に残っており、「戦争の最初から攻撃され、ロシアの戦車も来た。危ない状況」と説明。留学生は帰国したが、行き先のない多くの学生は大

学敷地内の地下に避難しているという。「これまで戦争の経験はないが、学生の世話は続けなければならぬ。ネットのおかげで授業が始まり良かった」と話した。

ヴェプリシイカさんは「大変な時だけど、やっぱり勉強したい。このプロジェクトは私たちにとって大きなチャンス。涙が出るくらい感謝している」と語った。

島田学長は8日の記者会見で「厳しい状況下にあっても勉強を渴望する学生にとつて確かな学びの効果が得られるように、できる限りのサポートを続けていく」と述べた。